

今年も坂井先生のコラムは継続いたします。ありがとうございます！しかもっ！！ホームページに『坂井先生のコラムのページ』が出来る事になりました！今までのコラムが全て見れますので是非ご活用下さい！

第8回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聰

・シンボルや VOCA を利用したコミュニケーション

1. はじめに

みなさん、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

さて、ついにやってきました。今回からはしばらく、シンボルや VOCA といったコミュニケーションエイドの導入について考えてみたいと思います。

知的障がいや自閉症のある人のなかには、音声で伝えられたことを理解することに困難をもっている人がいます。

つまり、話し言葉でしゃべられても、それが何を言っているのか理解することができにくい人がいるということです。周囲の人の話を聞いてそれを理解し、自分が期待されていることが何であるのかがわかるということは、社会生活をしていく上でとても重要なことです。私たちは、色々な場面で音声によるやりとりをし、コミュニケーションしながら生活をしているわけですが、それが上手くできない人が知的障がいや自閉症のある人の中にいるということです。

話し言葉を理解することができないことが原因で、人間関係がギクシャクしたり、他人に見下されてしまったりということもあるのではないかと考えられます。また、知的障がいや自閉症のある人から考えると、周囲の人が何か話しかけてくるけれど、何を言われているのかわからないという状況では、とても不安になってしまうのではないかでしょうか。その不安のためにイライラしてしまったり、落ち着かなくなったりすることも考えられます。その結果、激しいパニックなど、周囲の人に受け入れられないような逸脱した行動をしてしまう可能性もあります。そして、周囲の人から、「あの人は、何を言ってもわからない人でどうしようもない人だ」、「問題行動のある困った人だ」という評価につながることもあるでしょう。しかし、よく考えてみてください。この評価は正当なものなのでしょうか。伝えられた情報を理解することができなかつたために、そうせざるを得なかつたのだとしたらどうでしょうか。だれでも周囲の人に受け入れられないような逸脱した行動をしてしまうのではないかと考えますがどうでしょうか。

このような状況が家庭や学校、就労場所等、社会参加の場で起こっていたとしたらそれは不幸なことです。最も成長する時期である学齢期に、活動が制限されたり参加が制限されたりすることになってしまうと考えられるからです。

2. 安心できる環境を

アメリカに行ったことのある友人との会話です。彼が初めてアメリカに旅行をしたときのこと、日本に帰ってきた彼に尋ねました。

Q「どこで食事をしたの？」

A「マクドナルド」

Q「なぜアメリカまで行ってマクドナルドなの？それだったら日本でも一緒じゃない」

A「最初は安心できる場所が必要だったから、あそこなら、注文の仕方もわかっているし」

初めて海外に旅行した人が、日本でもよく見かけるファーストフードの店で食事をするというのはよく聞く話です。

初めて降り立った異国の地で、日本でも見かけたことのある看板を目になると誰でも安心するのではないでしょうか。

障がいの有無にかかわらず、わからない場所では見通しがもてなくなってしまうため、誰でも不安になってしまいます。そのような状況下、それも経験のない場所で食事ができるかというと、そのようなことはなかなかできないということなのです。もしできたとしても、周囲をキヨロキヨロと見渡しながら、何が起こるのかと五感を働かせ緊張しながらの食事になるでしょうから、味などもわからないかもしれません。

これと同じようなことは、知的障がいや自閉症のある人の日常の生活のなかにも有るのではないかと言えるのではないかと思います。周囲の人たちが何を言っているのかわからない不安な状況は、異国の地に初めて降り立った状況と同じようなものと考えることができます。このような中では、相手がいくら親切に声かけをしていたとしても、何を言われているのかがわからず、どのようにしてよいのかがわからなくなってしまうのです。それは不安を増す材料にしかならないのではないかでしょうか。

つまり、知的障がいのある子どもたちが、自分から積極的にいろいろなことにチャレンジしたり、コミュニケーションしたりできるようにするために安心できる環境を整える必要があるということなのです。安心できる環境を整えることは、一つは構造化という方法です。これは、これまでにも述べてきました。次回は、コミュニケーションすることができるような安心した環境を整えるための方法についてみていくことにします。

坂井聰先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞(著書)

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）

自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など